

## 第3年次 第2回SPH運営指導委員会議事録

- 1 日時 令和元年8月1日(木) 14:30~16:30
- 2 場所 県立高鍋農業高校 家庭経営室
- 3 参加者 【運営指導委員】  
中瀬委員長、松田委員、横山委員、槐島委員、木村委員、池田委員、松木委員、  
藤藪委員、山本委員、児玉委員  
【高鍋農業高校】  
萩原校長、岩切教頭、佐々木事務長、立野主幹教諭、村山教諭、  
黒木弘教諭、岩崎教諭、池田教諭、田住教諭、椿本教諭  
【県教育委員会】  
小川主幹、谷口指導主事
- 4 協議内容(記録者:村山教諭)
- (1) SPHルーブリック・意識調査集計結果
  - (2) 質疑応答
  - (3) 各指導運営委員からの指導・助言等

### (1) SPHルーブリック・意識調査集計結果、(2) 質疑応答

- (中瀬委員長) SPHルーブリック・意識調査集計結果について報告をお願いしたい。
- (立野主幹教諭) 意識調査においては、1年生が高い結果となった。これは、入学当初ということもあり、期待感の表れであると思われる。2、3年生においては、実際に専門的な学習に取り組み、謙虚に評価している結果であると思われる。2.8以上を評価目標としているが、全体的には目標値を上回ることができた。この調査では集団や個人を追うことができるので、この結果を見て、今後どのようにアプローチしていくのか考えていきたい。また、高農版の評価指標を作成し、学校生活全般やSPH事業をとおして資質・能力がどのように変容していくのかみていきたい。
- (山本委員) ICT教育においては、1点台ということで苦勞が見られる。実は大学校においても、どこまで教えるのかというカリキュラム上の成熟度が低いと思われる。教える方の戸惑いもあり、どこに到達点を決めて教えていくのかというものがない。実際に現場で動いているものを学ばせているのが状況である。高農ではどのように、どこまで学ばせていこうと思っているのか。
- (立野主幹教諭) スマート農業、ICT、AIとかキーワードはあるが、現場としてどの程度教えていくのかということについては、手探りの状態である。環境センシングにおいては、環境データを見える化して、蓄積したデータと栽培との因果関係を見ていきたい。
- (中瀬委員長) 食品乾燥技術を活用した新商品開発では、技能の数値が低いのが現状と今後どのように研究を進めていくか。
- (田住教諭) 現状、食品乾燥機を利用している生徒が限定されていることが、この結果につながったと思われる。

### (3) 各指導運営委員からの指導・助言等

(山本委員) この事業は今年度で終わるが、今後の予算措置はどのようになっているのか。

(谷口指導主事) 3年間の事業であるので、事業後の予算はつかない。

(小川主幹) SSHでは、指定期間が終わった後も経過措置の予算がつくが、SPHとSGHについては、予算措置がない。

(谷口指導主事) 国は、スタンドアップのための事業ということで、教育プログラムの開発を期待している。事業終了後も各学校で取り組めるような研究が求められている。

(萩原校長) 県からは、事業終了後の4年目からが大切であると指導を受けている。

(中瀬委員長) 年度当初の計画通り研究は進んでいるのか。

(立野主幹教諭) ひなたGAPの認証取得については、計画通り進んでいるが、AS IAGAPの認証取得については、差分研究や研修は計画通り行われているが、審査が立て込んでいるため、認証機関と調整中である。農畜産物の海外輸出については、牛肉は業者をとおして実施できるのではないかと思う。デュアルシステムについては、評価指標を見直し、学習成果が見えるようにしている。地域活性化においては、寮教育において、この2年間、地域の現状を知るために研修を行い、インプットを行ってきた。今年度は、この夏休み、該当生徒が出身地に出向き、将来、地域に帰ったときに地域のリーダーとして何ができるのか、アウトプット、提言を行う予定である。グローバル教育においては、「トビタテ！留学JAPAN」に参加している生徒が、帰国後に全校生徒に向けて、報告会を行う予定である。また、地元経営者より、世界を見据えた取組について講話を予定している。